

平成20年度田辺市地域コーディネーター養成講座【公開講座】

第6回講座報告書



平成21年2月8日(日曜日)

田辺地域職業訓練センター

田辺市教育委員会 生涯学習課

第 6 回 講座 概要

日時 平成 21 年 2 月 8 日 (日曜日) 13 : 30 ~ 16 : 30

会場 田辺地域職業訓練センター 3 階 大教室

出席 受講生 32 名
公民館主事 18 名
聴講者 60 名 (社会教育委員・公民館長・他市民)
事務局 生涯学習課藤若課長・生涯学習推進係小川係長・瀬戸主査

日程

- (1) 開会挨拶 13:35 ~ 13:40
田辺市教育委員会 教育長 中村 久仁生
- (2) 第 1 部 研究発表会 13:40 ~ 14:40
受講生のポスターセッションによる田辺市のまちづくりへの提言
- (3) 第 2 部 シンポジウム 14:50 ~ 16:20
テーマ「地域づくりは人づくりから」
パネリスト (五十音順)
石井 晃 (紀伊民報編集局長)
真砂 充敏 (田辺市長)
山口 裕市 (和歌山県教育委員会 教育長)
コーディネーター
堀内 秀雄 (和歌山大学生涯学習教育研究センター
センター長・教授)
- (4) 修了式 16:20 ~ 16:25
- (5) 閉会 16:30

田辺市地域コーディネーター養成講座 第6回講座出席簿

グループ名	役	氏名	館区	出欠	小分類	大分類
海と川		梅 田 昌 宏	稲成		(自然・環境)	地域資源
	サブチーフ	太 田 秀 和	大塔拠点			
		黒 木 勉 司	大塔拠点			
		五 味 亨	龍神拠点	×		
	チーフ	草 羽 信 也	ひがし			
		高 橋 英 明	長野			
		山 本 と し 子	芳養			
	山 本 真 嗣	龍神拠点	×			
くまぐすA		愛 洲 隆 一 郎	中辺路拠点	×	(歴史・文化)	地域資源
	サブチーフ	宇 井 正	三栖			
		坂 本 増 巳	秋津川			
		白 井 慶	東部			
		田 畑 清	中芳養	×		
	チーフ	羽 根 千 恵 子	本宮拠点			
		山 野 内 博	中辺路拠点			
	脇 村 英 一	稲成	×			
G8		石 谷 智 津	大塔拠点		(子育て・高齢者・その他)	地域交流
		大 坪 真 典	新庄	×		
	チーフ	栗 栖 崇	東部			
		竹 中 正 昭	万呂			
		橘 陽 子	上秋津	×		
		中 井 清 司	新庄	×		
		増 井 貞 美	中部			
サブチーフ	宮 下 勇	中部				
連れもていこら!!	サブチーフ	近 藤 信 子	稲成		(女性・福祉・その他)	地域交流
		玉 井 巍	南部			
		西 村 佳 子	本宮拠点			
		廣 岡 勝	西部			
		前 北 敏 三	稲成			
		前 嶋 幸 司	西部	×		
	チーフ	松 下 直 樹	南部	×		
	山 下 善 久	中芳養	×			
光源氏		小 野 有 信	万呂	×	(観光・産業・その他)	地域発信
	サブチーフ	坂 本 明 子	西部	×		
		田 中 豊 美	万呂			
		水 田 麻 希 子	龍神拠点			
		山 田 能 久	稲成			
	チーフ	山 根 一 人	東部			
	山 本 純 司	南部				
べんけい		赤 松 正 和	秋津川		(地域の魅力づくり)	地域発信
		寺 本 健 一	大塔拠点			
		中 田 康 彦	秋津			
	チーフ	野 村 悠 一 郎	上秋津			
	サブチーフ	松 下 泰 子	稲成			
		山 本 雅 祥	長野			
	山 本 美 恵	秋津	×			

【第1部 研究発表会】

受講生のポスターセッションによる田辺市のまちづくりへの提言

各グループとも、これまでの講義やグループワークでの学びを活かし、自分たちの学習テーマ（グループの小分類）に基づいて、以下のテーマに沿って提言を行った。

- 1、「こんな田辺市になったらいいなあ」
…田辺市の未来について夢を語ろう！
- 2、「その夢を実現させるためには、どんなことをしたらいい？」
…夢の実現計画を考えよう！
- 3、「夢を現実にするため、我々はこんなこと出来るで」
…私たちができる一歩を考えよう！



グループ名：海と川	発表者：草羽 信也
グループテーマ：自然・環境ノ地域資源	
<p>1、「こんな田辺市になったらいいなあ」 「豊かな自然を生かし、環境保全に努め、夢と活力のある田辺市」</p>	
<p>2、「その夢を実現させるためには、どんなことをしたらいい？」 海や川の水質保全（市街地の生活排水・農業集落排水等） 海や川の護岸、山や谷の砂防工事の工夫 森林保全（水源の確保）事業の推進 海や川の美化（保全） 農地の保全（休耕田・遊休田・放置田） 点在している自然や地域資源（行事）の取組</p>	
<p>3、「夢を現実にするため、我々はこんなこと出来るで」 環境に優しい洗剤や薬品等を使用する。 共生している生き物を大切にすることを学び伝承していく 企業の森等について理解し、参画交流を図る。 定期的に清掃活動等をする（川がきれいになれば海も美しくなる） 転入者等がいれば、温かく受け入れる体制をつくり、支援する。 各地域にある資源や行事をPRし地域間交流や世代間交流をする。</p>	
<p>グループより一言（発表者以外） （講座は）非常に難しかったが、大変勉強になった。（太田） 「海と川」というグループだったが、（大塔は）川の方なので、今後もみんなと頑張っていきたい。（黒木） 非常に勉強になりました。一生を通じて学ぶ姿勢は忘れない。（山本） 自然と環境というテーマであったので、森を作らなアカン、森を作ることは、川も海も大事だなと思いつた。（梅田） ターンしてきて6年が過ぎた。田辺市は自然に恵まれた良いところなので、みんなで誇りをもって頑張っていきたい。（高橋）</p>	



グループ名：くまぐすA	発表者：山野内 博
グループテーマ：歴史・文化ノ地域資源	
<p>1、「こんな田辺市になったらいいなあ」 「住みたい町、行きたい町、(一度訪れたら)帰りたくない町になっている」 市民憲章がみんなに浸透し、それが推進されている。市民憲章を「広報たなべ」誌に掲載してはどうか？</p>	
<p>2、「その夢を実現させるためには、どんなことをしたらいい？」 交通アクセス毎のPR、案内方法の充実 田辺にしかない物の開発と販売 各地域に密着した文化財と人材の掘起こしと顕彰及び宣伝 地域文化の継承と未来への伝承 地域の特長を生かした施設の整備 世界遺産の保全、整備と新施策</p>	
<p>3、「夢を現実にするため、我々はこんなこと出来るで」 観光情報広報宣伝物の作成 自己啓発 学びの場・発表の場の提供 行政局に歴史・人物・文化の紹介コーナーを作る 世界遺産レンジャー隊の創設</p>	
<p>グループより一言(発表者以外) 4月から地元で役立つ事があればお手伝いしたい。(宇井) 館長より依頼を受けて受講したが、大変勉強になった。(白井) 本宮地域を元気にしたい、元気な子供を育てたいと思い、伝統芸能の踊りを子供達に教えている。一度踊りを見に来てもらいたい。(羽根) 勉強になったのは、自分の意見を、いかに短く、簡単に、相手にわかってもらえる話をするかということ。(坂本)</p>	



グループ名：G 8（ジーエイト）	発表者：栗栖 崇
グループテーマ：子育て・高齢者・その他 / 地域交流	
<p>1、「こんな田辺市になったらいいなあ」 住む人に心温かい大きなハートの田辺市に （子どもから高齢者までが安心して暮らせ一生涯住みたいと思う環境を！） ハードよりもハートがいっぱいの田辺市に！</p>	
<p>2、「その夢を実現させるためには、どんなことをしたらいい？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民自動車を配置しては？（高齢者・子ども・観光客・飲食客の移動のための活用に） ・各地域で住民情報の共有を！（子ども会、町内会、老人会、育友会等の連携により独居老人や小中高生の子どもの把握） ・田辺市全体で「大会」を開催しては？ ・地域医療、福祉の充実（小児科、産婦人科や介護施設の設置増床） ・企業誘致と企業家への支援を（安心して暮らせる収入のための「田辺ブランド」を！） ・困り事発生時に頼れる窓口を設置しては？（各地域公民館の活用として） 	
<p>3、「夢を現実にするため、我々はこんなこと出来るで」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何より「健康第一」の生活をする ・何事にも積極的に行動・参加する（子ども、高齢者、障がいのある人達に自然に接するハートを持つ） ・環境美化に努める（まずは自宅周辺のゴミ拾いや夏の打ち水など） ・年に1回は老若男女全員参加できる記念イベントを立ち上げる ・次の世代への橋渡し役をする（自分の子どもが成長した後も地域の子ども会や行事などを協力して盛り上げる組織を作ろう！） 	
<p>グループより一言（発表者以外）</p> <p>メンバーが実績のある人ばかりだった。「継続は力なり」をモットーに今後も頑張っていきたい。（増井）</p> <p>住民との絆を失わないように、各種団体との協議会を作れば、みんなが繋がっていける。（宮下）</p> <p>行政は広報活動、指導者の育成に力を入れているが、できればお金（補助金等）をNPOなどに出して欲しい。（竹中）</p> <p>田辺市は、姥捨て山ではなく、老婆心をもって、高齢者・障害者共に生きる心をもった子どもを、安心して育てることができる市になって欲しい。その為によるこんで協力したい。（石谷）</p>	



グループ名：連れもていこら!!	発表者：玉井 巍
グループテーマ：女性・福祉・その他ノ地域交流	
<p>1、「こんな田辺市になったらいいなあ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人・ない人、高齢者、子ども・・・全ての人が安心して住める街 ・男女共同参画の街 	
<p>2、「その夢を実現させるためには、どんなことをしたらいい？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街づくりを企画する時はユニバーサルデザインの視点で ・啓発、情報交流の場づくり ・意志決定の場にもっと女性が参画していく（官公庁、議会、審議会、自治会など） ・女性が安心して子どもを産み育てられる環境づくり 	
<p>3、「夢を現実にするため、我々はこんなこと出来るで」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街の現状を把握し、学習や啓発活動に参加・参画していく ・地域コーディネーター養成講座の受講者の中で会を発足し動き始める（情報交流の場づくり地域住民の要望集約など） ・男性は自ら意識改革し積極的に家事、育児、介護に参加していく 	
<p>グループより一言（発表者以外）</p> <p>自覚的住民でありたい。（近藤）</p> <p>（本宮語り部嶮公夫さん作詞の熊野古道の唄を歌う）（西村）</p> <p>ここでおられる方はすでに実践されていますが、今日以降地域に帰って、一歩前に進みましょう。（前北）</p> <p>今回大変難しかったが、大変良かった。（廣岡）</p>	



グループ名：光源氏	発表者：山本 純司
グループテーマ：観光・産業・その他ノ地域発信	
<p>1、「こんな田辺市になったらいいなあ」</p> <p>産業：日本一の地産地消に生きる街</p> <p>観光： 世界遺産にふさわしい街づくり もてなしの心日本一の街</p>	
<p>2、「その夢を実現させるためには、どんなことをしたらいい？」</p> <p>産業：日本一の地場産業店をつくる（大型駐車場あり）</p> <p>観光：田辺の街を好きになる</p>	
<p>3、「夢を現実にするため、我々はこんなこと出来るで」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田辺をよく知ろう！ ・ 情報発信 	
<p>グループより一言（発表者以外）</p> <p>身近に大きな資源がある。それは人材であり、全国に800万人以上いる「団塊の世代」である。地域の役に立つよう十分生かしていくのが非常に大事。中高年のみなさん、一緒に頑張っていきましょう。（山田）</p> <p>慣れないグループ討議に戸惑ったが、グループのみんなが温かく、大変楽しく学ぶことができた。（山根）</p> <p>この講座には、地域の行事などが重なりあまり出席できなかったが、色々な年代や立場の方と知り合えて、本当に嬉しかった。龍神には「青年クラブ」という、地域の行事があれば頑張る若者がいるので、地域の宝物として残していきたい。また、地域も地区地区で熱い人が多いので、この講座で学んだことを生かせるように頑張りたい。（水田）</p> <p>ボランティア活動が好きで、色々参加している。身体の動くうちは、地域や田辺市ために頑張ろうと思ってこの講座に参加した。これからは、田辺市に何かをしてもらうのではなく、田辺市に何をできるかという時代になってきた。みんなで力を合わせて、田辺市がもっと素晴らしい、住みよい、優しい、そして住んで良かったと思える街にしていこうではありませんか。（田中）</p>	

グループ名：べんけい	発表者：松下 泰子
グループテーマ：地域の魅力づくり / 地域発信	
<p>1、「こんな田辺市になったらいいなあ」</p> <p>市民一人ひとりが誇りをもてるまち田辺</p> <p>世界遺産：「癒しの聖地」熊野古道 精神面・健康面 観光</p> <p>豊かな自然：「空気が旨い」海・山・川 温泉・食材 観光</p> <p>田辺の偉人：三大偉人 南方熊楠・植芝盛平・弁慶の他、鳥山啓・山本玄峰・片山哲・高川格</p>	
<p>2、「その夢を実現させるためには、どんなことをしたらいい？」</p> <p>一人ひとりが田辺の良さを認識する</p> <p>人づくり：学校教育（地域学習）生涯学習（市民講座）出前学習会（人材派遣の体制づくり）</p> <p>複合文化施設の機能充実（市民・学生・観光客など老若男女が集う拠点）</p>	
<p>3、「夢を現実にするため、我々はこんなこと出来るで」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田辺の誇りを伝える ・地域活動やNPO活動への参画 新たな資源を生かした魅力づくり 	
<p>グループより一言（発表者以外）</p> <p>この講座を受講し、回を重ねる毎に、地域づくりのために一所懸命がんばらねばという気持ちがふつつつと湧き上がってきた。今日を最後と言わず、知り合ったのも何かの縁ですので、今後も受講生みんなと交流していきたい。（野村）</p> <p>この講座で色々なことを学んだが、地域や田辺の誇りが大事だと感じた。秋津町は、防災連絡網を作ろうとしている。隣近所で雨が降ったら洗濯物を取り込んであげるような地域づくり、安心安全の住みよいまちづくりを、講座を受講して学んだ。（中田）</p> <p>この講座で、NPO等各地で頑張っている人を改めて知り、色々な意見を聞いて、自分視野の狭さに気づき、これからは広い視野でたくさん勉強することがまだまだあるなど実感した。（山本）</p> <p>この講座に参加して、みなさんが地域のことを少しでも考えていこうということは、山間部の大塔の来てもらって、大塔のことを知ってもらいたい。（寺本）</p> <p>現在、子どもクラブ育成協議会の会長をしており、この講座を受講して感じたことは、子ども達をいかに楽しく、行事で思い出を作らせてあげられるか、大人と子ども達のかげ橋になって、大人も子どもと一緒にやっていける、この田辺にいつまでもいたいという気持ちを持たせてあげるような大人になりたいと思いました。（赤松）</p>	



グループ名：主事 1・・・田辺市好士隊（こうしたい）
発表者：上岡（中部拠点）・宮口（本宮）・池田（中辺路）・岡本（ひがし拠点）
<p>1、「こんな田辺市になったらいいなあ」</p> <p>心豊かな田辺市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分できるまち ・教育のまち 田辺市 ・芸術、文化の香り高いまち ・人情のまち 田辺市 <p>安心安全な田辺市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康日本一のまち 田辺市 ・医療に不安がないまち ・犯罪や暴力のないまち <p>活気ある田辺市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が働く場所がたくさんあるまちに ・Uターン率日本一 ・中心市街地が活性化しているまち ・どこでも行列ができるまち 田辺市 ・若者が住みたいと思うまち 田辺市 <p>美しい田辺市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然も人の心も輝いて ・昔の建物や町並みが保存されているまち ・昔ながらの自然を取り戻したまち ・おもてなしの心日本一
<p>2、「その夢を実現させるためには、どんなことをしたらいい？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域全員でふるさと教育に取り組む ・子供に故郷を誇れる為の教育の実施 ・0歳児から読み聞かせや遊びを行ってもらう啓発運動 ・通学合宿（生活体験学習）の発展 ・読み聞かせサークルと学校との連携を支援 ・地域の交流スペースを設ける ・老人介護の体制の充実 ・医療機関の整備、充実 ・地域ぐるみでの防犯運動 ・隣近所同士のつながりを深める ・「地域子供見守りたい」の充実 ・田辺が世界に誇れるブランドの発信 ・田辺が世界に誇れる観光資源の更なる活用 ・交流人口の発生する大規模な大会を誘致 ・新しい産業の創出

- ・商店街の利用
- ・市民みんなで環境保全活動を
- ・市民みんなが語り部（おもてなし）

3、「夢を現実にするため、我々はこんなこと出来るで」

- ・地域文化を伝える授業を、小中学校を必ず実践する
- ・地域住民が先生となり、子供に地域の良さを伝える
- ・読み聞かせサークルの支援
- ・公民館を交流スペースとして、オープンにする
- ・酒を持ちよって「教育とは何ぞや」を考えよう in 公民館
- ・あいさつ運動の更なる充実
- ・住民対象介護セミナーの開催
- ・日頃からウォーキング等で健康づくりができるサークル活動
- ・「交替制で地域をパトロールしませんか？」月間の実施
- ・「まず隣の家の人と話してみませんか」月間の実施
- ・若者の若者による若者の為のサークル活動
- ・地元で買い物しようキャンペーン
- ・学生が商店街でも催し物や発表会をする
- ・「商売人あつまれ！きっかけはここから！！井戸端公民館」
- ・田辺でしか手に入らない産品フェア
- ・子ども対象の自然を守るための教室の開催
- ・毎日ゴミ1つは拾おうキャンペーン in 田辺
- ・訪れた人に「おおきに！またきてら！！運動」
- ・「地域でできるおもてなし塾」の開講



グループ名：主事 2・・・
発表者：下田（秋津拠点）
<p>1、「こんな田辺市になったらいいなあ」</p> <p>子どもを育む環境日本一のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育（学力）日本一のまちに 学力 = 勉強と生きる力 ・子どもの歓声あふれるまちに <p>若者が輝く日本一のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が帰ってくるができるまちに ・故郷で暮らす（働ける）ことができるまちに ・若者の遊び場の多い市 <p>若者が輝く日本一のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民みんなが笑顔で暮らせ、来訪者を笑顔でもてなせるまち ・近所つきあいのあるまちに ・多くの住民が地域活動に参加する地域づくり（意識改革）
<p>2、「その夢を実現させるためには、どんなことをしたらいい？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館を寺子屋に（地域の人が教師）学力アップ ・親や地域の人が学校に立ち入りやすくする ・子どもの参加しやすいイベントの提示 ・保護者等が子どもの教育についての悩みを聞く場が必要 ・学校間の枠をとり払った関係を持てるような場の提供 ・若者の意識調査 ・働き口の確保 ・遊べる発散できる場をつくる（カッパークのような） ・地域の特性を活かした産業の育成 ・地域性・専門性を活かした学校の設定 ・若者働き口ネットワークの開設・運営 地域の働き口総合サイト ・住民同士がつながる仕掛け ・魅力ある活動の提示（スポーツイベント、リサイクル物々交換大会） ・子どもの頃から他人を否定しない教育を進める ・ご近所声かけ 1日10人めざそう運動
<p>3、「夢を現実にするため、我々はこんなこと出来るで」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での指導者の発掘、養成（寺子屋）の指導者 ・地域の人材は公民館がとりまとめる ・公民館を自由に遊べるように開放する ・日本一色々な遊具が揃う公園 ・ふれあいスクールのような色々な体験をしてもらう ・若者・子ども対象に田辺の魅力を発信（情報誌とか） ・中心的役割を担える若者を探す ・市外在住の若者にアンケート

- ・ ニート引きこもり対策講座
- ・ 公民館を若者がたまる場所にする
- ・ 同窓会
- ・ 呑ミニケーション
- ・ 乗り合わせネットワークの構築
- ・ 深夜バス
- ・ 公民館報、チラシ等でイベント、活動の周知徹底
- ・ 世代間交流事業の開催



【受講生の発表を受けてのコメント】

和歌山大学 堀内教授

- ・発表を聴いていて涙が出てきた。
- ・いつもは辛口の事を言っているが感激した。
- ・「共生のまち」をつくろうとすれば、共生の住民がいて、共生に取り組む公務員も必要である。住民の自主的な活動も大事であるが、行政の意識・体質・公務員のあり方も問われている。
- ・住民だけが変わるのではなく、公共の仕事をしている公務員とは一体何をする人物なのかがを鋭く問われた発表だったと思う。

紀伊民報社 石井編集局長

- ・私もNPO活動を行っているので、他人事ではなく聞いていた。
- ・市民が自発的に活動する、自分の利益を求めてではなく使命として立ち上がるという兆しがそれぞれの報告から見えて、嬉しかった。
- ・あるグループの「自らチェンジする・参加参画する・一歩ずつ進みはじめよう・積極的に関わっていこう・もう一歩前進しよう」という風に、強い決意が出されたというのは、この講座の目的が十分かなえられたと思う。
- ・「補助金が欲しい」「施設を作ってほしい」等「行政から して欲しい」という、まだ行政にお願いするという発言が心残りであった。
- ・作って欲しいなら、自分達で作る。例えば、「 記念館が欲しい」のであれば、「自分達で作ろう！」と働きかけ、間伐材を切る人や大工さんなど、地域の人材を自分達で発掘し、その人達に参画してもらって自分達で作り上げるなど、せっかくみんなが集まったので、カタチある物にしようという「自ら行動する」という発想でいれば、この地域は益々良くなっていくのではないか？この講座の目的も生かされていくのではないか？

和歌山県教育委員会 山口教育長

- ・鳴り物あり、唄あり、手品ありの楽しい発表だった。
- ・これまでの(受講生達の)話し合いが、どういう雰囲気で行われたかが良くわかった。眉間にしわを寄せて暗い顔で話し合うのではなく、お互いがエネルギーを高め合いながら、前に行こうという気持ちでやってこられたのではないかと思う。
- ・「私たちができる一歩を考えよう」という所まで来ていると感じた。

田辺市 真砂市長

- ・(発表を受け)コメントするつもりでキーワードを書いていたが、書ききれないくらいで、まちづくりのキーワードが出尽くしたように思える。
- ・行政の日々の課題の多さをいつも感じているが、改めてみなさんから提供された。

- ・これからの「まちづくり」について、行政と住民との距離を、今まで以上に縮めて、「行政がする事」、「住民がする事」、「行政と住民が共にする事」がもう少し煮詰めれば、まちづくりが具体化するのではないかと感じた。
- ・「ハードよりもハート」ということで、行政はハード面ばかりやっていると思われがちだが、私は常々「まちづくりはソフトづくり」と考えている。「ソフトを作るためのハード」、「ハードを作るためのソフト」という両方が上手くかみ合えば、はじめて良いものができると思う。
- ・5回の受講で、多岐に涉って研究されていることと、発表力の凄さに驚いている。



【第2部 シンポジウム】

テーマ 「地域づくりは人づくりから」

パネリスト（五十音順）

石井 晃（紀伊民報編集局長）

真砂 充敏（田辺市長）

山口 裕市（和歌山県教育委員会 教育長）

コーディネーター

堀内 秀雄（和歌山大学生涯学習教育研究センター センター長・教授）

以下発言は敬称略

堀内

- このシンポジウムの狙いは3つある。
 - 1、市民の学習成果を、提言として直接行政のトップや有識者を聞いてもらって評価をもらうこと。
 - 2、「田辺市生涯学習推進計画」の中で「人材が大事」とあった。人づくりは共働きとしての共同学習が必要であり、そのために、毎講座ワークショップを行い、ポスターセッションで研究発表をお願いした。
 - 3、「地域づくりに、主体的に住民自らが行っていく」という意識高揚のために総合プロデュースを引き受けた。
- 受講生の発表を受け、以下の事柄について、パネリストに発言してもらう。
 - 研究発表からみえる地域づくりの風景（光と影）
 - 地域づくりの視座（スタンス）
 - 地域づくりを担う、市民の人材育成をどう進めるか
 - 研究発表した受講生へ、期待と注文のメッセージ
- まずは、 と についての発言をお願いする。

石井
- 和歌山県における依存症「なんとかしてもらおう、誰かに頼みにいく」が非常に多いと感じていたが、受講生の発表からは、「俺がやる！」という強いメッセージが多くあり、非常に心強く感じた。このことが地域づくりである。
- 色々な能力を持った人がいるが、地域でその人を発掘し、つないで、地域づくりに参画してもらう。…キーワードは“参画”
- これができれば、住民が変われば公務員が変わり、公務員が変われば、まちづくりに仕組みが全面的に変わってくる。
- 自分たちが何をするかを命題に、自分たちが参画して、自分たちの“まち”をどうするか考え実行していかなば、“まち”は変わらない。今日、受講生がそ



の決意されてことに感動を受けた。

- ・人のつながりが大事で、男女、年齢を問わず参画し、まちづくりはみんなが主役という気持ちで関わっていけば、住みやすい良いまちができるのではないか。

山口

- ・このような催しで、お互いが学び合いすることが、すでにまちづくりである。
- ・市長が言われた「ハートのまちづくり」が、この姿であり、「ハートのまちづくり」から、何が生まれてくるかが、今後の楽しみである。
- ・受講生のみなさんが地域の核であり、その核のみなさんが、どれだけ仲間を増やしていけるかが楽しみの一つである。
- ・受講生はそれぞれのテーマ別に発表したが、実はテーマは一つにつながっているのではないか。一つにつながった時に、新しい田辺市の姿が出てくるのではないかと感じた。
- ・受講生はテーマ別に分かれているので、今後、テーマ毎のアドバイザーが必要ではないか。例えば、和歌山大学中島教授は「近自然工学」自然に近い状態の工学の専門家であり、このような方をアドバイザーにしてはどうか。
- ・丹後ちりめんの復興をしながら、観光を成功している方が「観光とは地域の生きざまを見せることだ」
- ・滋賀県長浜市の「黒壁スクエア」の関係者によると、黒壁スクエアは市外からの来訪者で成功しているが、地元の方はここで買い物をしない。いかに、地元とつながるかが課題である。「日本一の地場産業の店を作る」という提言があったが、その店が地域の中で、住民の生活に関わっていけるようなまちづくりになればと感じた。
- ・「まちづくりは人づくりから」とあるが、「から」はいらぬ。「まちづくり」が「人づくり」である。堀内先生が言った「参加者ではなく、事業主体へ、事業主体から経営主体へ」関わっていく中で、人づくりが進んでいく。その姿を秋津野ガルテンで見た。
- ・例えば林業、京都大学がJ・Pod(ジェイポッド)を開発したが、今の販路では売れない。みんなで新しい販路を考えれば村の林業が生きてくる。そのようなことをみなさんで考えていてもらいたい。
- ・まちづくりの方法には二つあり、「困っていることをどう解決するか」、「地域の良いところを再発見する」があり、この二つが合わさればもっと良い。
- ・皆さん方のこれからの楽しいまちづくりを期待したい。

真砂

- ・行政がまちづくりに関する事業計画を策定しても、計画がその人を救うことにはならない。住民一人ひとりががんばって行動しなくては、まちづくりにつながらない。
- ・今日は良い意見を聞いた。「誇りのあるまちをつくる」たとえば東京へ行った時、「和歌山から」と言わず、「大阪から」と言っていないか。または、「白浜のとなり」などと言っていないか。我がまちを誇りに思い、我がまちを知り、どこへ行っても、「田辺市」について話すことが大事だと感じた。

- ・「地域力」とは、専門家・都市化と反する事で、昔は、素人集団が専門家以上のことを行ってきた。防犯も教育も介護も地域で賄ってきた。それが徐々に専門化してきた。
- ・現代社会は、専門化することは大変良いことであるが、それに頼って専門機関に責任を持つということに行きすぎているのではないかと感じる。
- ・「地域の力」とは、素人集団が集まった専門力であった。これがまちづくりの原点である。
- ・誰が人材を作るのかといえ、行政がきっかけを作ること大事であるが、自分で作る、お互いで作る事が大事である。

堀内

- ・山口さんの意見をまとめると、「今そこにある危機」の問題解決能力、「夢や想いを形にする」の両立が地域づくりにつながる。
- ・次は 「地域づくりを担う、市民の人材育成をどう進めるか」について
山口
- ・「まちづくりは人づくりから」の「から」をとることが私の答えである
- ・地域の課題に仲間がつながって、一緒に考えるということが、学びが始まり、人づくりである。答えをさがして行動することがまちづくり・地域づくりである。
- ・このように他人と関わることで、自分の殻を一つずつ脱いでいる。自分で解決しようとしても無理なので、他人に相談し、協力してもらうことで、自分の殻を脱ぐことになり、人とつながって行って、問題と向き合っていくことで、その時点で自分が変わっている。人づくりはそこで始まっている。
- ・このようなフォーラムに参加する時点で人づくりがはじまっている。
- ・地域の住民が “人材の素(もと)” である。地域住民一人ひとりの良さをつかんで、上手な生かし方を考え、適材適所でその気にさせ、“素” を “人材” に変えていくことが、地域コーディネーターの役割である。

真砂

- ・地域づくりは理屈ではなく、実践である。
- ・人づくりは地域で作られる。
- ・子供の教育を考えた時、学校・家庭・地域の教育力があるが、あえて順位をつければ地域の教育力が大事と思っている。
- ・地域づくり・まちづくりは、地域の課題解決と、地域の魅力を上げることであり、住民が自ら学ぶことしかないのではないか。
- ・栗栖川小学校の校訓が「自学自治」であった。



石井

- ・人材育成とは仲間が育てること。自ら学びたいと思った時、上からの指導だけではなく、身近な人間をまねることから育っていき、学んでいく。
- ・市民活動では、現場が育てる。現場の活動を活発にすれば人が育つ。
- ・「馬を水辺に連れていけても、水を飲むことはできない。」自ら学ぶ気持ちにならなければ育たない。周りに影響されて、自然に学ぶ人は多い。
- ・地域の課題を解決したい、自分たちの活動や地域を自慢したい、という気持ちがあれば、自分たちの活動を一生懸命することが、人づくりにつながっていく。

堀内

- ・「人を作る」のは人であるが、「人を潰す」のも人である。人づくりには色々な軋轢があるので、地域づくりの担い手の人づくりを進めるのに何か参考になる例はあるのか？

真砂

- ・認められるばかりではなく、潰されることも含めて人づくりであり、そのような経験を踏まえて自分が作られていく。
- ・信頼が大事。信頼される、信頼することがキーワードである。

堀内

- ・失敗のない成功はない。いつも安全な人は人の鑑にならない。

石井

- ・人が人を潰すということに、昔は敏感であったが、最近は動じない。他人は他人、自分は自分である。
- ・勝海舟が、後年、福沢諭吉から批判された時、「毀誉は他人の事、行蔵は我にあり」、他人を陥れたり、他人を誉めたりすること、他人が言っていることで、私がやっていることは私しか知らない。と返答した。
- ・つぶされても構わないぐらいの気持ちで良いのではないか。
- ・自分の行動が間違っていないと思えば、他人の意見に右往左往されずに、一生懸命することだと思う。
- ・批判があれば、自分のしていることが足りないと思ってもっと頑張るべきである。出る杭になっても、打たれることにはならないと思っている。

山口

- ・勝海舟は、「あなたはなぜ、あのような難しい外交問題を乗り越えてこられたのか」と問われ、「誠意と気迫だ」と答えた。誠意と気迫を持って臨めばいろんな問題が解決できる。
- ・私が勤めていた高校は、学校に来たくない、勉強したくない、掃除をしたくない、運動をしたくない、というような生徒が多くいたが、最後は、運動もするし、掃除もするように変わった。なぜかと考えると、やはり人間関係か。こちらが生徒を嫌うとその臭いが生徒に伝わる。生徒を良いように変えてあげたいと思えば、率先して一緒にする。堀内先生が「自分も地域づくりに取り組まなければ、周りもついて来ない」と言ったがその通りであると思う。

- ・校長は、生徒や先生達が一番しんどい時に、できるだけその場に一緒にいれて行動を共にすれば、信頼につながっていく。一生懸命汗を流してゴミを拾っていると、周りの生徒や先生達も、してくれと言わなくても、拾ってくれるようになった。

堀内

- ・山口教育長は粉河高校校長時代に、学校の中にまちづくりの寺子屋を一緒に作って実践された。率先垂範の方です。
- ・ 研究発表した受講生へ、期待と注文のメッセージをお願いします。

石井

- ・今から20数年前に、堀内教授が岸和田市役所時代に、私も朝日新聞の記者と一緒にソフトボールサークルを作って遊んでいた。やがて転勤の時に、ボールに寄せ書きしてくれた堀内先生の言葉が「いつも前向きに」だった。坂本竜馬も「例えドブの中で倒れて死んだとしても前のめりに死にたい」と言ったという。
- ・地域活動を実践していれば、大変なこともたくさんあると思うが、いつも前向きに頑張ってもらいたい。



山口

- ・昨年未のテレビ和歌山で放映していた「ガイアの夜明け」で、「魔法のバケツ」の紹介があった。日本人の研究者が開発した、菌を使って生ゴミを処理する魔法のバケツを、生ゴミ処理に困っていたフィリピンのセブ島で、各家庭に配った。生ゴミが処理されるとともに、出来た堆肥を行政が買い取ることで、さらに、その魔法のバケツが普及した。さらに、住民はその堆肥を売ったお金で、街の緑化に取り組み、それが観光資源になった。これはまちづくりのモデルケースである。
- ・「ハートのまちづくり」はもうすでに始まっていることが確認しあいながら、受講生がいった「私たちが田辺市に何ができるかという時代にはいった。」という言葉はオバマ大統領と同じで素晴らしい。
- ・みなさんの力を結集してまちづくりをがんばってもらえたら、楽しいと思うし、私も一緒に頑張りたいと思います。

真砂

- ・次のまちづくりの参考になった。
- ・まちづくりは生きがいづくり。人の為のなることを自分の楽しみになれば、これ以上のものはないのではないのか。最澄法師が言った「自利利他」とは、「他

人のためにがんばれば、巡り巡って自分の利益になる」ことではなく、「他人の利益が自分の利益」ということである。

- ・受講生には、長い時間をかけて、知恵をしばっていただき、それぞれの立場で、まちづくりについて提案していただくところまで、努力をいただいた。これをきっかけに明日から、それぞれの地域でコーディネーターとして頑張っていたきたいと思いますし、この偶然を、意味のある偶然であるようにと願っています。

- ・私も頑張るので、一緒に頑張りましょう。

堀内

- ・この講座は、3年前に真砂市長が日本一の生涯学習計画を作ろうと言っていたことから始まっている。その計画を作るのに、地域から作ろう、地域が現場で、地域にこそまちづくりのヒントがある。生涯学習もまちづくりも、地域や住民が主役である意識してやってきた。
- ・公民館は地域づくりの拠点であるので、その仕事に従事している人が変わらなければ、地域は変わらない。同時にそこで活動している住民の人も参加して欲しい。
- ・運動団体や要求団体で、行政や公民館に要求するのではなく、協働型で共に作るのが大事。
- ・地域づくりには、横系・縦系のほかに斜めの系も必要である。その最大の成功例が秋津野ガルテンである。
- ・地域を分断しないで、連携してまとめる力が、地域づくりの際の人づくりに大事なことである。
- ・横系を町内会・自治会、縦系をNPOなどテーマ型目的別市民運動とすれば、つなぐ役割・斜め系が、行政や大学、マスコミなどであり、その斜め系を上手く使うことが、地域づくりに必要。
- ・どういう地域にするのか、ビジョンやミッションをしっかりと持つことが大事。
- ・なぜ、生涯学習計画でこの講座を実施したか。田辺市全体の人づくりのため。
- ・次年度の講座には、講座修了生も入って、企画立案し運営し、参加者から事業主体、経営主体になってもらいたい。そして修了生から人材が育ち、将来の議員や首長が出るような講座になれば良いと思います。



【修了式】

中村教育長より、受講生を代表して、チーフ企画委員会世話人の栗栖さんに、修了証を授与する。



各グループ代表者（チーフ・サブチーフ）



修了証授与



決意表明

【ポスター】

組名 海と川
テーマ 自然と環境

豊かな自然を生きし 環境保全に務め夢と活力ある田辺市

① 海や川の水質保全 (市街地の生活排水 農業集落排水等)

② 海や川の護岸山や谷の砂防工事の工夫 ③ 森林保全 (木及の確保) 事業の推進

④ 海や川の美化 (保全) ⑤ 農地の保全 (休耕田 遊休田 放置田)

⑥ 点在している自然や地域資源 (行事) の取り組み

① 環境にやさしい素材や製品等を使用する
② 共生している生き物も大切にすることを学ばせたい
③ 企業が農家について理解し農産物を買う

④ 定期的に清掃活動等をする (ゴミの分別は海に流さない)
⑤ 転入者等がいきなり過剰な受け入れ体制をとり変換する
⑥ 各地域にある資源や行事をPRし地域間交流や世代間交流をする

「海と川」

グループ名: くまぐすA (地域資源: 歴史・文化)

①「こんな田辺市になったらいいなあ」
…田辺市の未来について夢を語ろう!

②「その夢を実現させるためには、どんなことをしたい?」
…夢の実現計画を考えよう!

③「夢を現実にするため、我々はこんなこと出来るぞ」
…私たちができる一歩を考えよう!

住みたい町、行きたい町、
帰りたくない町になっている

市民意識がみんなに浸透し
それが推進されている

来る毎に新しい発見がある

交通アクセス等のPR、
案内方法の充実

田辺にしかないもの
南船と歴史

観光情報
広報物の
作成

「くまぐす」の各地域に根着いた文化財と
人材の育成と、活動の活性化

自己啓発
等が現場
関係の場
から

地域文化の
継承と
未来の伝承

伝統音楽
= 船唄
と唄

地域の特長を生かした
施設の整備

備え付け
作る

竹藪に
歴史人物
文化紹介
コーナー

世界遺産の
保全・整備と
新発見

石山(山) 石巻、西村
遺跡・史跡
(船墓石)

世界遺産
レンガ塔
の創設

「くまぐすA」

グループ名：田辺市好士隊（田辺市こうしたい）兼務

1	2	3
<p>こんな田辺市になったらいいなあ …田辺市の未来について夢を語ろう！</p> <p>心豊かな田辺市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自慢できるまでに ・教育のまち 田辺市 ・芸術、文化のまち 田辺市 ・人情のまち 田辺市 	<p>その夢を実現させるためには、どんなことを したい？ …夢の実現計画を考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域金融でふるさと教育に取り組み ・学校に放課後活動のための教育の実施 ・児童から訪ねかけや遊び等行ってもらう放課後活動 ・通学自習（生涯体健学館）の活用 ・訪ねかけサークルと学校との連携を支援 ・地域の交流スペースを創れる 	<p>夢を実現するため、我々はこんなことが 出来るで…私たちができる一歩を考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流を支える授業等、中学校で授業を実施する ・地域住民が先生となり、子どもに地域の歴史を伝える ・訪ねかけサークルの活用 ・公民館を交流スペースとして、オープンにする ・高校生らによって「教育と地域学舎」を築き上げる
<p>安心安全な田辺市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康日本一のまち 田辺市 ・医療に不安がないまち ・災害の備わりのないまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人介護の体制の充実 ・医療機関の整備、充実 ・地域ぐるみでの防災運動 ・防災南郷士のつながりを深める ・1階の子供見守り席の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動の更なる推進 ・市民講座やボランティアの募集 ・学生が防災講座や防災訓練を実施する ・「防災人あつまれ！さっしり防災教室」を開催する ・「防災講座の開催をパトロールしませんか？」の募集
<p>活気ある田辺市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の働く場所がたくさんあるまちに ・ロードサイン日本一 ・中心市街地が再活性化しているまち ・がごでれが育んでいるまち 田辺市 ・若者が住みたいと思えるまち 田辺市 	<ul style="list-style-type: none"> ・田辺が世界に誇れるブランドの発信 ・田辺が世界に誇れる観光資源の更なる活用 ・交流人口の発生する大規模な大規模な誘致 ・新しい産業の創出 ・熟成市の利活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の若者による若者のためのサークルを創る ・地元で買いたい物しよこまやカフェ ・学生が地元で地元産品や農産物を買える ・「若者あつまれ！さっしり防災教室」を開催する ・田辺市に若者が住みたいと思えるまち
<p>美しい田辺市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然も人の心を育んでいる ・若の環境や自然が保存されているまち ・若ながらの自然を愛するまち ・若もてなまの日本一 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民みんなが環境保全活動をする ・若もみんなが自然の部（おちててんし） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども対象の自然を愛するあまの自然の部 ・若者100人あつまれ！さっしり防災教室 ・若もてなまの日本一

「主事 1」

1	2	3
<p>こんな田辺市になったらいいなあ …田辺市の未来について夢を語ろう！</p> <p>子どもを育む環境 日本一のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育（学力）日本一のまちに ・学力…勉強と生きる力 ・子どもの歌声があふれるまちに 	<p>その夢を実現させるためには、どんなことを したい？ …夢の実現計画を考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館を子ども館に（地域の人が教員）学力UP ・親や地域の人が学校に立ち入りやすくなる ・子どもの参加しやすいイベントの提示 ・保護者層が子どもの教育についての悩みを聞く場が設けられる ・学校の枠をとり払った関係を持てるような場の提供 	<p>夢を実現するため、我々はこんなことが 出来るで…私たちができる一歩を考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の指導者の発掘、養成（子ども館）の指導者 ・地域の人は公民館がとりまとめる ・公民館を自由に習へるよう開放する ・日本一様々な道具が揃う公民館 ・中心的役割を担える若者を採す ・あれあいのスクールのような色々な体制を設けてもらう
<p>若者が輝く 日本一のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が輝くことができるまちに ・若者が輝く（働ける）ことができるまちに ・若者の遊び場の多いまちに 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の就職誘引 ・働き口の確保 ・習へる時間できる場をつくる（カッパクのような） ・地域の特性を活かした産物の育成 ・地域性、専門性を生かした学校の設置 ・働き口ネットワークの構築、産官地域の働き口組合サイト 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者、子ども対象に田辺の魅力を発信（情報誌とか） ・中心的役割を担える若者を採す ・市外在住の若者にアンケート ・ネット、若者こもり対面講座 ・公民館を若者がたまる場所にする
<p>人のつながり 日本一のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民みんなが笑顔で暮らせ、若者も笑顔で暮らせるまちに ・若者も笑顔のあるまちに ・多くの若者が活動に参加する地域づくり（組織改善） 	<ul style="list-style-type: none"> ・住居同士がつながる仕掛け ・魅力ある活動の提示（スポーツイベント、リサイクル物々交換大会） ・子どもの頃から他人を喜ばない教育を進める ・若者層向け1日10人めさそう運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者ニケーション ・若者あつまれネットワークの構築 ・京友ハス ・公民館、子ども等イベント、活動の認知徹底 ・世代間交流事業の開催

「主事 2」

平成20年度田辺市地域コーディネーター養成講座 アンケートまとめ

回収枚数 26件

1. 年齢		
20歳代	2件	7.7%
30歳代	0件	0.0%
40歳代	4件	15.4%
50歳代	6件	23.1%
60歳代	11件	42.3%
70歳代以上	2件	7.7%
2. 性別		
男	17件	65.4%
女	8件	30.8%
3. 住んでいる地域について(公民館区)		
中部拠点	7件	26.9%
芳養谷拠点	1件	3.8%
秋津谷拠点	3件	11.5%
三栖谷拠点	0件	0.0%
ひがし拠点	3件	11.5%
龍神	2件	7.7%
中辺路	2件	7.7%
大塔	2件	7.7%
本宮	1件	3.8%
4. 受講の区分		
公民館の推薦	18件	69.2%
自主参加	7件	26.9%
5. 受講のきっかけについて		
館長からの依頼	10件	38.5%
公民館主事等職員からの依頼	8件	30.8%
広報/ホームページ等でみて	3件	11.5%
その他	3件	11.5%
・区長からの依頼・NPO推薦・地域活動の学習のため		
6. 出席回数は?		
0回	0件	0.0%
1回	2件	7.7%
2回	0件	0.0%
3回	3件	11.5%
4回	1件	3.8%
5回	8件	30.8%
6回	11件	42.3%
7. 出席回数が少ない方にお聞きします。その理由は?【いくつでも】		
仕事の都合	5件	19.2%
家庭の事情で	3件	11.5%
講座への興味が無くなった	0件	0.0%
その他:	3件	11.5%
・病気・他の行事と重なった・個人都合		
8. 講義内容について		
全部理解できた	11件	42.3%
一部難しかった	7件	26.9%
一部理解できた	3件	11.5%
難しかった	2件	7.7%

9. 講座の全体時間(2時間30分間)について			
長い	1件	3.8%	
短い	4件	15.4%	
ちょうど良い	18件	69.2%	
10. 講義時間(45分間)について			
長い	2件	7.7%	
短い	2件	7.7%	
ちょうど良い	21件	80.8%	
11. グループ学習時間(60分間)について			
長い	1件	3.8%	
短い	11件	42.3%	
ちょうど良い	13件	50.0%	
12. グループ学習発表時間(1グループ3分間)について			
長い	0件	0.0%	
短い	12件	46.2%	
ちょうど良い	13件	50.0%	
13. 参加しやすい講座実施日について【いくつでも】			
日曜日午前	1件	3.8%	
日曜日午後	15件	57.7%	
日曜日夜間	1件	3.8%	
土曜日午前	3件	11.5%	
土曜日午後	7件	26.9%	
土曜日夜間	0件	0.0%	
平日午前	1件	3.8%	
平日午後	4件	15.4%	
平日夜間	7件	26.9%	
14. 全体の講座回数は何回ぐらいが適切かと思えますか？			
3回以下	0件	0.0%	
4回	0件	0.0%	
5回	6件	23.1%	
6回	13件	50.0%	
7回以上	6件	23.1%	
15. 講座実施頻度はどれぐらいが良いと思えますか？			
月1回程度	23件	88.5%	
月2回程度	0件	0.0%	
毎週連続	1件	3.8%	
その他: ・隔月	1件	3.8%	
16. 地域活動実践者による事例発表について			
ぜひ必要	24件	92.3%	
あまり必要ではない	0件	0.0%	
不必要	0件	0.0%	
17. 研究者(大学教員等)による理論や概念について			
ぜひ必要	19件	73.1%	
あまり必要ではない	6件	23.1%	
不必要	0件	0.0%	
18. フィールドワーク(現地見学)について			
ぜひ必要	23件	88.5%	
あまり必要ではない	2件	7.7%	
不必要	0件	0.0%	

19. 講座の形式について、どの手法が良いと思いますか？		
講義のみで毎回レポート提出	5件	19.2%
講義時間を短く、グループ学習時間を長く	15件	57.7%
講義時間を長く、グループ学習時間を短く	2件	7.7%
その他：		
・ 今回の形式で良い・ 今回の割合で良い・ 主催者の都合でよい		
20. 講義内容に必要なと思う分野について【いくつでも】		
教育全般	11件	42.3%
観光 / 産業	9件	34.6%
自然 / 環境	13件	50.0%
高齢者	13件	50.0%
女性	4件	15.4%
子ども	8件	30.8%
福祉	10件	38.5%
人権	5件	19.2%
歴史 / 文化	11件	42.3%
地域の魅力づくり	17件	65.4%
その他：	1件	3.8%
・ ファシリテーターの役割について・ 会の運営方法・ 魅力ある話し方		
21. 講師に呼んでもらいたい人物について【自由意見】		
・ 大学の先生も結構ですが、田辺市内にもいろいろな経験の豊富な方が大勢いると思います。その様な方の話が聴ければ実感出来るのではと思います。・ 加来耕三・ 他府県の実践者・ 山口良治（伏見工業高校ラグビー部監督）・ 中瀬喜陽・ 当地域の文化・ 歴史等に詳しい方		
22. 田辺市のまちづくりへの提言(研究発表会)について		
うまくできた	9件	34.6%
あまりできなかった	12件	46.2%
できなかった	4件	15.4%
23. 今地域に必要なものはどれだと思いますか？【いくつでも】		
行政からの支援(資金他)	9件	34.6%
地域のリーダー	17件	65.4%
地域の人材の発掘 / 養成	17件	65.4%
住民みんなが顔見知りになる	4件	15.4%
みんなが交流できるイベント実施	10件	38.5%
若者の定住	9件	34.6%
高齢者の活躍の場	8件	30.8%
子どもを地域で見守る	9件	34.6%
その他：		
・ 地域の意見を集約し、コーディネートする人、機会・地域の課題の把握・共に実践していける仲間・地域の事を議論できる回(本講座のような)		
24. 今後、自分が地域づくりに関わるとしたら何ですか？【いくつでも】		
町内会等自治会組織の役員となる	6件	23.1%
町内会等自治会組織の行事に参加	8件	30.8%
公民館の役員となる	5件	19.2%
公民館行事に参加	9件	34.6%
PTAなど学校関係の役員となる	1件	3.8%
学校の行事に参加	7件	26.9%
青年団、女性会、老人会など地域づくり組織の役員となる	5件	19.2%
青年団、女性会、老人会など地域行事に参加	9件	34.6%
その他地域づくり活動組織に参加	12件	46.2%
地域づくり活動組織(NPO法人など)を立ち上げる	8件	30.8%

その他:

・各地域組織があるが活かされているのか?地域活動の内容や結果報告が欲しい

25. 次年度以降も講座を実施しますが、参加されますか?

ぜひとも参加したい	3件	11.5%
機会があれば参加したい	21件	80.8%
参加したくない	2件	7.7%

26. 講座運営に関して改善点等あればお聞かせください【自由意見】

・全講座なるべく休まないで出席出来る人を選んでほしいと思う。必ず途中で放り出さない人を選ばないとグループの士気が高くなり、休まず無理をしても出て来ている人に対して失礼だと思います。責任を強く持って出席してほしい。責任感のない人は認めない(頼まない)ようにしてほしいと思いました。迷惑です。

・グループ発表の時間をもっと厳正にすること(時間厳守は発表の基本である)。参加(出席)率の問題・・・全講座出席するのが第一(人選を考える必要有)

・公民館推薦には今一度考え直す必要がある。

・一回は地域ごとに話し合っても良いと思いました。

・グループ討議の時間が60分の設定ならば、課題は1つに絞り、ある程度の余裕をもって、議論出来ればと思います。第6回の発表を聞いて地域の活性化にとり公民館主事の方々の役割、存在はとても大切な位置を占めていると思いますので、もっと、元気潑刺でユーモアのセンスを持って頂きたいと思います。また、ファシリテーターとしては、まとめる力「時間厳守」と人をひきつける話術を磨いていただければと願っています。

・小分類に分けた理由がわからなかった。そのことについて、班で話し合うのかと思ったが、そうでない時もあったので、何かなあと思った。しかし後の方では小グループについての意見を出せたと思う。

・駐車場の確保、はじめたの参加者に対するの説明(進め方、手法等)

・市全体としてのトータル的な取組については良かったと思います。・各地域の方とのふれあいと、その地域の実情それぞれ意見交換つながりができた。・最後の発表会では、参考となる点が多々ありました。そしてとくに主催側の人選と講座のそれこそコーディネーターが良かった。

・夢も必要だが、実現性のあるような話があればよいと思う。

・今回初めての取組で戸惑う点も多くあったと思いますが、何とかまとめて頂いて感謝しています。市長・県教育長など、なかなか話を聞けない人々の講演は大変良かったと思います。受講生の選出には各公民館長に依頼したと思われませんが、年齢制限も必要ではと思います。老若男女は良いと思いますが、今回のようなグループ討議等が多くある場合、難しい点が出て来ます。年齢別で語り合う機会を作り、最後にそれぞれのまとめ発表でも良いのでは・・・と思った事もあります。チーフ会議での運営と言う事でしたが、心良くチーフになって引っ張ってくれる人々が何人いるか?で運営の仕方に影響が大きく出ると思います。

・人選が難しいと思われるのですが、若い人の参入が望まれる。

・最高の運営でした。(時間は気にしないで)

・受講者の公募枠を増やしたらどうか。もっと目的意識を持った人が集まり出席率もあがり議論も活発になると思う。・講座回数6回は少ない。せめて8回。不完全燃焼の気分。

・問題意識が共通する地域ごとにグループを作ってやる方が議論が深まったように思う。